

Plate XIV. I: Primordium of next extra-axillary bud, which divides into two primordia; leaf (below, Bs') and shoot (above, Bs). J: Longitudinal section of terminal portion of more developed rhizome (Corresponds to Stage IV in fig. 3). L in J, leaf. S, shoot. B, extra-axillary bud. K: Next leaf primordium (Bs'=Bl) differentiated on the parent extra-axillary bud (B) in J. L: Meristem of shoot apex (Bs) on the parent extra-axillary bud (B) in J. I, K and L: ca. $\times 130$. J: $\times 10$.

Plate XV. M: Longitudinal section of terminal portion of further advanced rhizome (Corresponds to Stage V in fig. 3 and 4). N: Primordium of extra-axillary bud (Sb) which differentiates at the abaxial base of the next leaf primordium (Sl in O). O: The next leaf primordium (Sl) in the parent shoot apex (S) in M. P: Meristem of the next shoot apex (Ss) which is established on parent shoot apex (S) in M. M: $\times 10$. N-P: ca. $\times 130$.

○藻菌類の属の和名について (三浦宏一郎) Koichiro MIURA: On Japanese names of phycomycetous genera

藻菌類は、たとえ可視的な集落を作った場合でも、肉眼的特徴だけでは分類学上の科・属の識別さえ困難である。このため、今日的な意味での藻菌類の和名は、近代生物学の輸入以後に植物綱目学・病理学・発酵学などの必要から、学名をふまえて名付けられてきた。一方、藻菌類を顕微鏡で観察した場合、属の識別は比較的容易であるが、種の同定は専門家でもむずかしいことが多い。即ち、適当な条件下に培養され、必要な構造を形成したプレパラートを必要とする。以上のような事情から、藻菌類の日本の和名は属の学名に対する名前として取り扱うのが良いと思う。以下に、専門書・図鑑・啓蒙書・旧制中等学校教科書など約330点の文献を涉猟して、属の学名と対になって用いられた藻菌類の和名を一覧して示す。

ここでは学名は abc 順に、和名は引用文献の古い順に並べてある。単に学名をカナ書きしただけのものは除いた。() 内は属の *Synonym* に与えられた和名を示す。「属」の字は省略した。便宜上、旧字体はできるだけ新字体に、旧カナ遣いは新カナ遣いに、ひらがなはカタカナに書き改めた。ルビは除いた。明らかに印刷ミスと断じられるものは訂正した。各和名には文献中の一番古いもののみを示したが、これは必ずしも最初の命名とは限らない。Plasmodiophorales は現在では变形菌として取り扱われることが多いが、一応最後に付記しておく。この資料をまとめるにあたり、伊藤洋博士、印東弘玄博士、小林義雄博士、土居祥児博士、中池敏之博士には有益な助言を賜わると共に、貴重な文献を拝見させて頂いた。厚くお礼申し上げる。

Absidia ユミケカビ³²⁾。 **Achlya** ミズカビ¹⁰⁾, ワタカビ¹⁶⁾, 霧菌¹⁷⁾, 細菌¹⁸⁾。 **Actinomucor** シャジクケカビ³⁰⁾。 **Albugo** (= *Cystopus*) 白症⁸⁾, 白銹菌¹³⁾, シロサビ菌¹⁵⁾, シロサビ病菌¹⁶⁾, 白鏽菌¹⁷⁾, シロサビキン²⁵⁾, 白銹病菌²⁶⁾, (シロサビ³⁾, 白銹菌¹¹⁾)。 **Allomyces** カワリミズカビ³⁰⁾。 **Ancylistes** ミカヅキモ寄生菌¹⁶⁾, 連鎖菌²⁹⁾。 **Aphanomyces** 細囊綿菌²⁹⁾。 **Aquamortierella** ミズケカビ³⁴⁾。 **Basidiobolus** パシジオボールス菌²⁰⁾。 **Basidiophora** ヒメムカシヨモギノベト病菌¹⁶⁾, 単條露菌¹⁸⁾, 円頭露菌²⁹⁾。 **Bremia** 萩苣ノベト病菌¹⁵⁾, チシャノベト病菌¹⁶⁾, プレミイ菌¹⁷⁾, 檜露菌¹⁸⁾, チサノベト病菌²³⁾, 掌状露菌²⁹⁾。 **Chaetocladium** 黒黴菌寄生菌¹¹⁾, イトエダカビ¹⁵⁾, 線枝黴²⁹⁾。 **Chaetostylum** ハリエダケカビ³²⁾。 **Chlamydoabsidia** コウマクニミケカビ³⁴⁾。 **Choanephora** 錦葵寄生菌¹¹⁾, 箕黴²⁹⁾, コウガイケカビ³¹⁾, コウガイカビ³³⁾。 **Chytridium** [白井氏は“壺菌属”にキトリヂニムとルビをふっている⁶⁾]。 **Circinella** カラクサケカビ³⁰⁾。 **Cladochytrium** 水草寄生菌¹¹⁾, トウモロコシノ斑点病菌¹⁶⁾, 分岐壺菌²¹⁾, エダツボカビ³¹⁾。 **Coemansia** ブラッシュカビ³²⁾, ブラッシカビ³³⁾。 **Cunninghamella** クズタマカビ³¹⁾, クスダマカビ³²⁾。 **Dictyuchus** 多室綿菌¹⁸⁾, 網囊綿菌²⁹⁾, アミワタカビ³¹⁾。 **Echinosporangium** トゲケカビ³⁴⁾。 **Entomophthora** (= *Empusa*) 蝶蛉寄生菌¹¹⁾, 蝶蛉菌¹⁶⁾, エントモフトラ菌²⁰⁾, メイレイ菌²⁸⁾, 虫生藻菌²⁹⁾, ハエカビ³¹⁾, (蠅寄生菌¹¹⁾, ハエカビ¹⁶⁾, 蠅黴¹⁸⁾, 虫黴²⁹⁾)。 **Helicostylum** マキエダケカビ³⁰⁾。 **Lagenidium** 水綿寄生菌¹¹⁾, 連鎖壺菌²⁹⁾, クサリツボカビ³¹⁾。 **Leptolegnia** 細囊水生菌²⁹⁾。 **Leptomitus** 節水生菌²⁹⁾, フシミズカビ³¹⁾。 **Micromyces** 小菌²⁹⁾。 **Monoblepharis** 水底菌¹¹⁾, サヤミドロモドキ¹⁶⁾, モノブレファリス菌²⁰⁾, 单毛菌²⁴⁾。 **Mortierella** モルチエレラ菌¹¹⁾, 腐黴²⁹⁾, クサレケカビ³¹⁾。 **Mucor** カビ・黴菌⁴⁾, クロカビ⁷⁾, ケカビ⁹⁾, 毛黴菌¹¹⁾, クモノスカビ¹⁶⁾, 毛黴²¹⁾。 **Mycotypha** ガマノホカビ³⁴⁾。 **Olpidiopsis** (= *Pseudolpidium*) ソボカビモドキ³¹⁾, (擬油壺菌¹⁸⁾)。 **Olpidium** ハボタン苗ノ立枯病菌¹⁶⁾, 油壺菌¹⁷⁾, 甘藍苗ノ立枯病菌¹⁹⁾, ツボカビ³¹⁾。 **Peronospora** ツユカビ³⁾, 頭子菌⁵⁾, 露黴⁸⁾, 露黴菌¹¹⁾, 露菌¹²⁾, ダイコンノベト病菌¹⁶⁾, ベトカビ²⁷⁾。 **Phycomyces** ヒゲカビ¹⁵⁾, 髮黴²⁹⁾。 **Physoderma** (= *Urophlyctis*) 発胞壺菌¹⁷⁾, 発孢壺菌²¹⁾, (一毛壺菌¹⁷⁾)。 **Phytophthora** (= *Kawakamia*, *Pythiacystis*, *Pythiomorpha*) 馬鈴薯黴¹⁾, 馬鈴薯疫病菌¹⁸⁾, ジャガタライモノ疫病菌¹⁶⁾, 疫病菌¹⁷⁾, 馬鈴薯疫菌²⁰⁾, ジャガタライモノエキビヨウキン²⁶⁾, (川上菌¹⁸⁾, シチトウノ籠甲病菌¹⁶⁾, 檸檬腐敗菌¹⁷⁾, 類疫病菌²⁹⁾)。 **Pilobolus** ピロボウルス菌¹¹⁾, マグソカビ¹⁶⁾, ミズタマカビ²²⁾, 水玉黴²⁹⁾。 **Piptocephalis** エダカビ¹⁶⁾, 珠子黴²⁹⁾。 **Plasmopara** (= *Pseudoplasmodara*) ベト病菌¹⁵⁾, ブドウノベト病菌¹⁶⁾, 遊子菌¹⁷⁾, 遊走菌¹⁸⁾, 单軸露菌²⁹⁾, タソジクツユカビ³²⁾, (擬遊走菌¹⁸⁾, 擬单軸露菌²⁹⁾)。 **Pseudoperonospora** (= *Peronoplasmodara*) 擬露菌²⁹⁾, ニセツユカビ³²⁾, (遊子露菌¹⁷⁾)。 **Pythiogeton** 類腐敗菌²⁹⁾。 **Pythiopsis** 擬腐敗菌²⁹⁾。 **Pythium** 草苗ノ立枯病菌¹⁶⁾, 腐敗菌¹⁷⁾, フハイ

菌³²⁾。**Rhipidium** オオギミズカビ³⁰⁾。**Rhizidiomyces** 壺菌¹⁶⁾、壺状菌²⁸⁾。**Rhizopus** 菓実白黴菌¹¹⁾、クモノスカビ¹⁴⁾、根足菌¹⁷⁾、蜘蛛巢黴²⁹⁾、ハイカビ³²⁾。**Saprolegnia** (= *Isoachlya*) 水生菌²⁾、魚生菌⁸⁾、ミズカビ¹⁰⁾、水黴²³⁾、(類綿菌²⁹⁾)。**Sclerospora** ササラ病菌¹⁵⁾、アワノササラ病菌¹⁶⁾、核子菌¹⁷⁾、白髪病菌¹⁸⁾、飴病菌²⁹⁾。**Spinellus** タケハリカビ³²⁾。**Syncephalastrum** ハリサシカビモドキ³²⁾。**Syncephalis** ハリサシカビ³²⁾。**Synchytrium** ヤブマメノ疣粒病菌¹⁶⁾、集合壺菌¹⁷⁾、ヤブマメノ瘤病菌¹⁹⁾、サビツボカビ³¹⁾。**Syzygites** (= *Sporodinia*) フタマタケカビ³²⁾、(クサビラカビ¹⁶⁾)。**Thamnidium** 車軸黴菌¹¹⁾、シャジクカビ¹¹⁾、タマエダカビ¹⁶⁾、枝黴²⁹⁾、エダケカビ³⁰⁾。**Thraustotheca** 壊囊綿菌¹⁸⁾、ヤブレワタカビ³²⁾。**Zygorhynchus** ツガイケカビ³²⁾。
— **Plasmodiophora** プラスモチオホーラ菌¹¹⁾、根瘤病菌¹⁵⁾、ハボタソノ根瘤病菌¹⁶⁾、
变形菌¹⁷⁾、甘藍ノ根瘤病菌¹⁹⁾、カブラ類ノ根瘤病菌²⁵⁾、ネコブカビ³⁵⁾。**Sorosphaera** 球囊菌²⁹⁾。**Spongospora** 海綿状子菌¹⁷⁾。

文献 1) 安本徳寛 植物書 明 18。 2) 三好学 隠花植物大意 明 22。 3) 田中延次郎 日本菌類図説、第一巻第一篇下 明 23。 4) (三好学?) 雪上ノ黴菌 植雜 6: 249 明 25。 5) 白井光太郎 中等植物学教科書、同統編 明 26。 6) — 植物病理学、下編 明 27。 7) 平沢金之助 博物学教科書、植物学之部 明 27。 8) 斎田功太郎 大日本普通植物誌 明 30。 9) 三好 学 普通植物学教科書(21版) 明 32(初版、明 24)。 10) — 植物学講義 明 32。 11) 市村 塘 近世動植物学教科書、下巻(3版) 明 33(初版、明 32)。 12) 遠藤吉三郎 実験隠花植物学 明 39。 13) 出田 新 日本植物病理学、上巻(4版) 明 42(初版、明 34)。 14) 斎藤賢道 東洋産有用醸酵菌 明 42。 15) 斎田功太郎 内外普通植物誌、下等植物篇(2版) 明 43(初版、明 43)。 16) 安田 篤 植物学各論、隠花部 明 44。 17) 堀正太郎 植物病原菌分類表 大 6。 18) 沢田兼吉 台湾産菌類調査報告(一~六) 大 8~昭 8。 19) 神田・神野 植物学講義、中巻 大 10。 20) 市村 塘 植物学講義(9版) 大 13(初版、大 3)。 21) 出田 新 統日本植物病理学、上巻(2版) 大 14(初版、大 12)。 22) 石川光春 植物学通論、下巻 昭 5。 23) 水野弥作 植物学通説 昭 7。 24) 吉井義次 植物学大要 昭 8。 25) 斎田・佐藤(矢部・大賀増訂) 最新図説内外植物誌(2版) 昭 9(初版、大 6)。 26) 山田幸男 分類植物学、上巻 昭 10。 27) 山羽儀兵 中等新植物教授資料 昭 10。 28) 村越三千男 内外植物原色大図鑑、第13巻 昭 10。 29) 伊藤誠哉 大日本菌類誌、第一巻藻菌類 昭 11。 30) 小林・印東 菌類(生物実験法講座 IV E) 昭 30。 31) 山田・前川・江上・八杉(編) 岩波生物学辞典 昭 35。 32) 印東弘玄 植物分類学、葉状植物(生物実験講座 4) 昭 37。 33) 堀川芳雄(編) 現代生物学大系 6、下等植物 B 昭 42。 34) 印東弘玄 糞生ケカビ目検索表とリスト 日本菌学会雑報 1968: 12~20 昭 44。 35) 今関・本郷・椿 菌類(標準原色図鑑全集 14) 昭 45。 (東京教育大学理学部植物学教室)